新型コロナウイルス感染症（COVID-19）について

妊娠中ならびに妊娠を希望される方へ (2020/02/27 更新)

日本産婦人科感染症学会
令和２年２月　１日　第１版
令和２年２月12日　第２版
令和２年２月13日　第３版
令和２年２月15日　第４版
令和２年２月18日　第５版
令和２年２月27日　第６版

要点

1．市中感染が広まりつつありますので、特に妊婦の方は密室での集会など不要な外出は控えてください．手洗いを徹底してください.

2．家庭内に感染者や疑いのある方がおられる場合は別室に過ごすなど接触を避けてください。タオルや食器の共用は避けてください。

3．厚労省の通達により、受診を希望される方はまず帰国者・接触者相談センターに相談してください。必要に応じて、指示された医療機関を受診してください。複数の医療機関を受診することは控えてください。

4．37.5 度以上の発熱や倦怠感が 2 日以上続く場合は帰国者・接触者相談センターにご相談ください。

5．PCR 検査が現時点で唯一の検査法ですが、偽陰性（感染しているのに検出できない）のことがありますので、心配だからとか念のためという理由で受けることはできません。また主治医や帰国者・接触者相談センターにはいつごろからどのような症状があるかなど正確に情報を伝えてください。

6．軽症でも新型コロナウイルス感染の可能性のある時は妊婦健診受診を控えてください。また，ご家族に患者さんがおられる場合も妊婦健診の受診日を 1-2 週ずらすことは可能ですので主治医に電話でご相談ください。但し、それまでの妊娠経過が正常の場合に限ります。不正出血やお腹の痛み、破水感など産科的症状のある場合は受診が必要ですが、かかりつけの産婦人科で対応できないことがありますので、帰国者・接触者相談センターにご相談ください。

7．妊娠末期（分娩前）に新型コロナウイルスに感染した妊婦さんは，指定医療機関で分娩を行うことになります。新生児とは双方がウイルス陰性となるまで面会できずまた授乳もできません。

8．主治医の判断により感染の有無にかかわらず、ご家族の立会分娩や面会は感染予防のため極力お控えいただくことになります。

新型コロナウイルスとは？

2019 年 12 月 30 日に中国保健機関が公表した湖北省の武漢の「原因不明の肺炎」は、翌 2020 年 1 月 7 日には原因が新種のコロナウイルス (2019-nCoV)と特定され、遺伝子も同定されました。WHO は 2 月 11 日、本ウイルスによって引き起こされる疾患名を COVID-19， 国際ウイルス命名委員会はウイルス名を severe acute respiratory syndrome coronavirus 2 (SARS-CoV-2)と決定しました。当初は動物からヒトへの感

染のみと考えられていましたが、武漢市内でヒトーヒト感染が報告され、2 月 25 日の時点における中国政府の公式発表では、同国内患者は 7 万 7 千例を超え、死亡者も 2500 例を超えています（致死率約 2%）。患者数は依然増加していますが、武漢では増加率は鈍化し、中国の他の都市では減少傾向にある事からピークアウトしていると考えられます。わが国では、旅行や感染者との接触が明らかでない感染者が報告され、水際対策による感染防御が有効な時期は過ぎて前流行期（プレパンデミック期）に入ったと考えられます。しかし、大規模な感染爆発には至っておりません。コロナウイルスとは、脂質の膜であるエンベロープに覆われた一本鎖（+）RNA ウイルスで、普通感冒を起こす 4 種類のウイルス HCoV-229E、HCoV-OC43, HCoV-NL63、HCoV-HKU1 に加えて、2003 年に流行した重症急性呼吸器症候群（Severe Acute Respiratory Syndrome, SARS）の病原体 SARS-CoV，2012 年に流行した中東呼吸器症候群（Middle East Respiratory Syndrome, MERS ）の MERS-CoV の 6 種類が知られています。今回のウイルスはこれら過去に報告されたウイルスとは遺伝子構造が異なっておりコウモリやヘビなどの動物からヒトへの感染性を獲得し、さらにヒトからヒトへの感染性を獲得したものと考えられます。いずれのウイルスも有効なワクチンや抗ウイルス薬はありません。エイズの薬（プロテアーゼ阻害薬）が有効である可能性がありますが現在研究中であり一般に使える状態ではありません。

妊産婦、妊娠を希望する方へのアドバイス

2009 年の新型 H1N1 インフルエンザパンデミックでは妊婦における重症化や死亡率の増加が報告され,2016 年のジカ熱の流行では妊娠中の感染により小頭症など重篤な児の先天性障害をきたすことが報告されています。2 月 12 日付の Lancet の報告では、武漢市内で妊娠後期に COVID-19 に罹患した妊婦 9 例の解析で経過や重症度は非妊婦と変わらず、子宮内感染は見られなかったとしています[1]。しかし、一般的に、妊婦さんの肺炎は横隔膜が持ち上がるために換気が抑制され、またうっ血しやすいことから重症化する可能性があります。妊婦さんは人混みを避ける，こまめに手洗いするなどの注意が必要です。人込みに出る場合は飛沫感染を防ぐために可能であればマスクをかけることが望ましいのですが、マスクの有効性は確認されていません。糞便中にもウイルスが排出されるという報告がありますので、トイレに入った後や食事の前には必ず石鹸で手を洗ってください。今後流行が拡大するようであれば、公共の場所で ATM などのタッチパネルに触れた後や、電車の吊革、手すりなどに触れた後も手洗いやアルコール消毒を心掛ける必要があります。また、医療機関には、他の妊婦さんや高齢者，免疫抑制状態や合併症のある患者さんも来院されます。感染を広げないため新型コロナウイルス感染症を疑って受診を希望される方は帰国者・接触者相談センターから受診を勧められた医療機関を受診してください。自己判断で

[1] Huijun Chen, Juanjuan Guo, Chen Wang, Fan Luo, Xuechen Yu, Wei Zhang, Jiafu Li, Dongchi Zhao, Dan Xu, Qing Gong, Jing Liao, Huixia Yang, Wei Hou, Yuanzhen Zhang. Clinical characteristics and intrauterine vertical transmission potential of COVID-19 infection in nine pregnant women: a retrospective review of medical records. The Lancet DOI:https://doi.org/10.1016/S0140-6736(20)30360-3

複数の医療機関を受診することはお控えください。

身近にできる予防

繰り返しになりますが外出後や食事前などこまめに流水と石鹸で手洗いをしてください。このウイルスにはアルコールなどの消毒薬（アルコールスプレーやアルコールジェルなど）が有効です。発熱や咳などの症状がある人との不必要な接触は避けましょう。薬局や薬店（ドラッグストア）などで購入できるマスク(サージカルマスク)は感染予防の有効性は確認されていません。マスクをすることで、手指を不用意に口や鼻にもっていかないという効果があります。しかし、空気中のウイルス粒子は花粉や細菌に比べてはるかに小さく、またマスクの周辺から入り込むことがありますので過信は禁物です。マスクをかけていても鼻を出したり、口のまわりを開けたりすると何の意味もありません。マスクは使い捨てで 1 日に数回取り換えてください。市販のマスクが入手できない場合はガーゼ等の手作りマスクでも構いません。いずれにしてもマスクを外す時には、マスクの紐をもって着脱し、手を汚染しないようにしてください。ただし、WHO は一般の方がマスクを着用することの効果はほとんどないとしていますので気休め程度と考えてください。

うがいや鼻うがい、口腔洗浄には予防効果は認められていません。自然宿主動物はまだ不明ですので野生動物との接触は避け、肉や卵は良く加熱してください。家庭用の空気清浄機やニンニク、ゴマ油、ラベンダーなど特定の食べ物やサプリメントによる予防は有効性

が確認されていません。現時点では予防接種はありません。家庭内に感染あるいは疑いのかたがおられる場合は極力接触を避けてください。

新型コロナウイルス感染が心配なときは

厚生労働省の通達により受診を希望される方は、まず帰国者・接触者相談センターに相談してください。必要に応じて、指示された医療機関を受診してください。複数の医療機関を受診することはお控えください。厚生労働省では、倦怠感や 37.5 度以上の熱発が 4 日以上続く方を受診対象としていますが、妊婦さんの場合、リスクを考慮して 2 日でも受診を検討するようにとしています。

2020 年 2 月 25 日の時点で、各地で感染例の報告が相次ぎ、日本国内でも二次感染、三次感染が発生しています。中国の報告では本疾患の 85%は軽症ですみますが、15%が重症化し、2%が死亡する可能性があるとされています。本疾患に特異的な症状はなく、発熱や倦怠感などの症状が 4 日以上の比較的長期続くといわれています。全く無症状の方（不顕性感染）や，いきなり肺炎による呼吸困難で受診する方もおられます。新型コロナウイルス感染症とそれ以外の感染症を臨床症状やレントゲン検査だけでは鑑別区別することはできません。新型コロナウイルス感染を確定するには、医療機関で PCR というウイルス遺伝子を検出する方法による診断を受けることが必要です。しかしインフルエンザのようにその場では結果が出ず、また感染症診療に対応できない病院・医院もありますので、帰国者・

接触者相談センターに電話でご相談ください。さらに、検査で陰性であっても、後で陽性になることがあります。無症状であるが念のためとか心配だからという理由による検査は受けるべきではありません。PCR 検査は万能ではありませんので、感染症診療になれた主治医の判断に任せてください。

仮に新型コロナウイルス感染であっても、現時点での死亡率は SARS や MERS よりもはるかに低く、患者さんが多い中国でも、現時点では妊婦さんの死亡報告はありませんので過剰な心配は不要です。しかし、一般的に妊婦さんの肺炎はご本人が重症化するのみならず、胎児に影響する恐れもありますので、母児の健康を守るためには適切な治療と対応が必要です。我々産婦人科医はお母さんと赤ちゃんを守る立場で、適切にサポートいたします。特に SARS や MERS 流行時には初期の感染で流産が、中後期の感染で早産や胎児発育遅延が報告されていますので妊婦さんは感染しないようにするのがもっとも重要です。

感冒様症状があるときは市販の感冒薬や漢方薬などを服用しても構いませんが、医師や薬剤師に相談してください。抗菌薬（抗生物質）は無効であるばかりか耐性菌を誘導する可能性がありますので、万一新型コロナウイルスに感染した時に混合感染による細菌性肺炎の治療が上手くできなくなる可能性があります。自己判断で服用するのは避けてください。

妊娠している方が感染した場合

妊娠初期・中期に流早産を来す可能性は高くないと考えられています。また、胎児奇形の

報告は現在のところありません。従って感染が心配な場合、まずは自宅安静で様子を見てください。37.5 度以上の発熱が 2 日以上続く場合は帰国者・接触者相談センターにご相談ください。その指示により指定された医療機関を受診していただきます。

場合によっては妊婦健診を 1-2 週遅らせることも考慮してください。

妊娠後期の感染で、出産に至るときも他の患者さんに感染させないよう受け入れ可能な施設での対応になります。陣痛室，分娩室や出産後の回復室は全てトイレつき個室となります。部屋から外に出ることや赤ちゃんとの面会、授乳はできません。産科医をはじめとする医療スタッフは院内感染予防のため全身を覆うガウンとアイガード、マスクを着用して診察・看護いたします。面会や立会分娩はできません。肺炎などに加え、赤ちゃんの状態によって帝王切開になる可能性がありますが、その判断は主治医にお任せください。

情報の収集について

感染症流行時には様々なデマが発生します。特に Twitter などの SNS により不確かな情報が拡散しがちですが、政府や国際機関、感染症を専門とする学会のホームページなど信頼できる情報をもとに行動してください。情報は随時アップデートします。

1. 厚生労働省：新型コロナウイルスに関する Q&A　（英語、中国語、韓国語対応あり）
   https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryou/dengue_fever_qa_00001.html
2. 国立感染症研究所：コロナウイルスとは
   https://www.niid.go.jp/niid/ja/kansennohanashi/9303-coronavirus.html
3. 国立感染症研究所：感染症疫学センター
   https://www.niid.go.jp/niid/ja/from-idsc.html
4. CDC（英語：English）
   https://www.cdc.gov/coronavirus/2019-nCoV/guidance-hcp.html
5. 日本感染症学会：新型コロナウイルス感染症
   http://www.kansensho.or.jp/modules/topics/index.php?content_id=31
6. 公益社団法人　日本産婦人科医会
   https://www.jaog.or.jp

無断引用・転載を禁じます。引用・転載は原則として本学会員に限ります。また、引用・転載時には本学会の許諾を得てください。

日本産婦人科感染症学会

広報担当

早川　智，相澤（小峯）志保子（日本大学医学部病態病理学系微生物学分野）